

マニフェスト 達成率 85%

● 4年間の主な実績 ●

1 新型コロナウイルス感染症への緊急支援実施

コロナ対策費町事業総額 9億6,975万円
 主な事業：中小企業応援給付金、地域応援ふれあいクーポン、児童生徒にタブレット整備、PCR検査、抗原検査キットクラスター抑制、交通移動支援事業、新生児子育て応援クーポン、水道料金支援等

2 コロナ後の移住先ランキング 埼玉県1位

雑誌「アエラ」で三芳町が、コロナ後の移住先自治体ランキングで埼玉県1位、関東で4位に選ばれました。2020年No.36号



3 本の貸し出し冊数20年連続埼玉県1位

コロナ禍においても感染症対策を施し、多くの住民の皆さまに図書館をご利用いただき、人口一人当たりの本の貸し出し冊数が20年連続で埼玉県内1位となりました。(中央図書館)

4 東京オリ・パラのレガシー創造

東京2020オリンピックで、聖火リレーを誘致し、オリンピックでオランダ、パラリンピックでマレーシアのホストタウンとなり、未来へのレガシーを創造しました。



5 福祉の拠点「太陽の家」 竣工

就労支援、生活支援など障がい者の社会生活を支援し、災害時の福祉避難所となる「太陽の家」を竣工しました。



町長マニフェスト「未来創造 32の宣言」(2018年12月)の達成率評価を政策推進室で実施しました。新型コロナウイルス感染症が拡大し、各種事業が中止、延期となる中で、住民の皆さまと進めたまちづくりは、達成率85%と評価されました。他の事業も含め主な実績をご紹介します。

6 学校教育のICT化促進

児童生徒に一人一台のタブレット、並びに各教室へ電子黒板を配備し学校教育のICT化を促進しました

7 令和の森公園に各種施設が完成

せせらぎの水辺、築山、アスレチック、ドッグラン、BBQ広場、テニスコートの人工芝化等を整備しました。(一部工事中)



8 藤久保地域拠点施設等整備事業 本格スタート

公共施設マネジメントに基づき、長年にわたり住民の皆さまと進めてきた藤久保地域拠点施設等整備事業も6月定例議会で予算承認され本格スタート

9 武蔵野落ち葉堆肥農法FAOへ申請

武蔵野の落ち葉堆肥農法が日本農業遺産に認定され、さらにFAO(国連食糧農業機関)への申請も認可され申請書を提出しました。

10 着実に進む行財政改革

少子高齢化社会において持続可能な財政運営を行うため進めてきた行財政改革も成果が出始めました。

基金残高 8.4億円(H29)⇒27億円(R3)

ふるさと納税 3.7億円(県内4位R3)

企業誘致による税収増 2.3億円(年間)

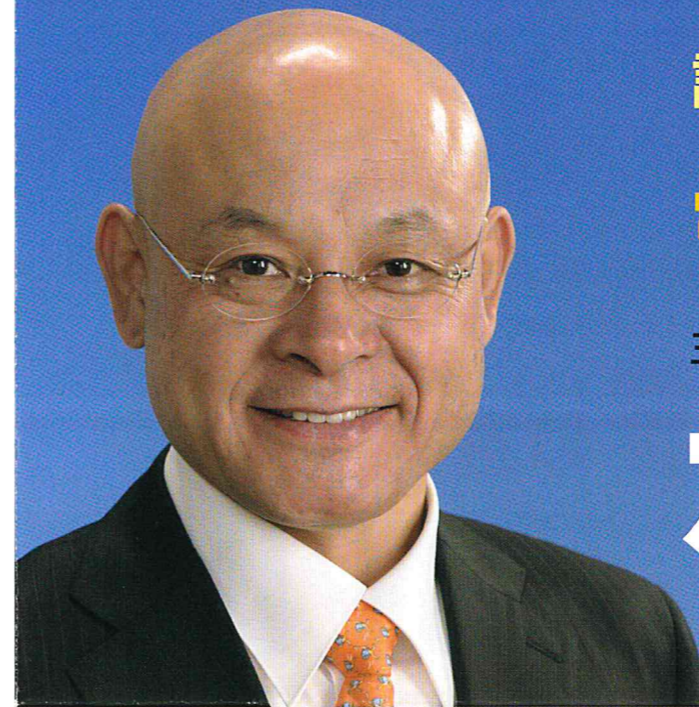
財政健全化 経常収支比率 96.5%(H26)⇒91.4%(R3)

その他の町長就任からの実績

- 川越いも振興会天皇杯受賞
- 子ども読書活動で文部科学大臣表彰
- 地方自治法総務大臣表彰
- 広報みよし内閣総理大臣賞受賞
- 埼玉県健康長寿優秀市町村表彰
- 三芳町消防団消防庁官表彰
- 藤久保平地林埼玉緑のトラスト14号地認定

- 中国・河北省宣化区と「宣化・武蔵野」都市農業共同推進宣言
- 栃木県上三川町、新潟県津南町、埼玉県上里町、神奈川県山北町との災害時相互応援協定締結
- ふじみ野市・三芳町環境センター完成
- 余熱利用施設「エコパ」オープン
- 中央公民館・学校給食センター完成
- 藤久保、富士塚、北松原土地区画整理事業竣工

- 第3保育所木質化で竣工
- 全小中学校にエアコン設置
- 小中学校耐震補強工事完了
- 路線バス藤久保2.3.4区に供用開始
- 手話言語条例制定
- あいサポート運動
- 地区社会福祉協議会スタート
- 地域包括支援センター設立
- ゼロカーボンシティ宣言
- パートナーシップ宣誓制度



誰一人取り残さない

幸せのまちづくり

三芳町長

林いさお

討議資料

私の決意

新型コロナウイルス感染症との闘いも3年になろうとしています。この間、住民の皆様には感染症対策にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私たちは、感染症拡大により不安と孤独と閉塞感の中での生活を余儀なくされてきました。しかし、人類史上未曾有のパンデミックは、人が地域で生きていく上で何が大切なのかをあらためて気づかせてくれました。

誰一人取り残さない。一人ひとりの命と暮らしを守り、その幸せ(well-being)を実現することです。

「百折不撓(ひやくせつふとう)」～心が百回折れてもくじけない。百遍倒れたら百遍立ち上がる。これが、人類のDNAだと言われています。

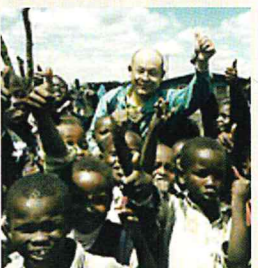
この精神で、誰一人取り残さない、幸せのまちづくりを目指してまいります。

百折不撓

プロフィール

- 1957年(昭和32年)10月30日生まれ
國學院大學大学院文学研究科修士修了
- 趣味・・・読書、音楽鑑賞、サイクリング、ガーデニング
- 好きな言葉・・・念ずれば花ひらく(坂村真民)
- 尊敬する人・・・西郷隆盛、二宮金次郎
- 主な経歴・・・2007年、三芳町議トップ当選(2484票)
2010年、2014年、2018年三芳町長当選
入間東部地区事務組合管理者、消防団団長、東入間青年会議所理事長、日本青年会議所理事、NPO法人国境なき奉仕団理事

- ボランティア歴
国内：阪神淡路大震災、日本海重油災害、東日本大震災、熊本地震等
国外：ピナツポ火山噴火支援活動・ストリートチルドレン支援事業(フィリピン)、孤児院支援活動(タイ)、医療・学校建設支援事業(バングラデシュ)、スラム街青少年自立支援事業、ガリッサ緊急食糧支援事業(ケニア)等



林いさお後援会事務所

〒354-0045 三芳町上富1003
TEL: 080-8118-9795 FAX: 049-258-0968

HP >> <http://www.isao.bz/> からお願いします。

Facebook >> <https://www.facebook.com/isao.hayashi.792>

林いさお通信169号「幸せのまちづくり」35の宣言

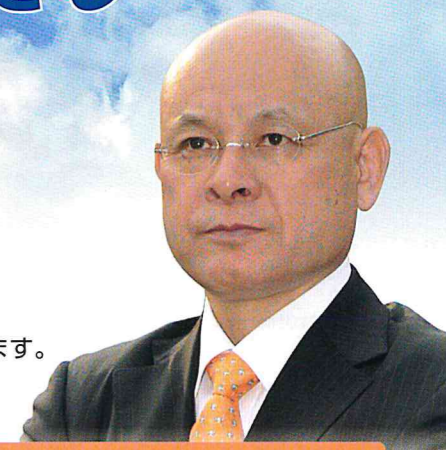


home page



facebook

誰一人取り残さない**幸せのまちづくり** 3つのまなざし



- 1 「未来の子ども達のために」**
子どもが幸せな社会は大人も幸せ。未来を担う子ども達へのまなざしが第一です。
- 2 「幸せ (well being) の実現」**
well being は、肉体的、精神的、社会的に満たされた状態をいいます。アフターコロナ後のまちづくりは、一人一人の幸せがまちづくりの指針です。
- 3 「SDGs のまちづくり」**
町の自然、歴史、文化などの資源を活かしながら、持続可能なオンリーワンの町を創ります。

人類の社会経済活動が、産業革命以降加速度的に拡大され、私たちが地球上で安全に生存できる限界を超えようとしています。

私たち人類は、青く美しく輝く地球で共に生きています。現在、世界の国々も企業も自治体も、地球の限界（プラネタリー・バウンダリー※1）が来ないように SDGs に取り組んでいます。未来の子どもたちに、この青く輝く美しい地球を継承するのが私たちの使命です。

グローバルな視点に立ちながらローカルな三芳町の問題に取り組んでいくことが重要です。

※1 ヨハン・ロックストローム「プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)」SDGs(持続可能な開発目標)

『**幸せのまちづくり**』35の宣言

1 子どもにやさしいまちづくり

宣言 1 子どもにやさしい町づくりを推進します
(仮) 子どもの権利条例を制定し、子どもたちの基本的な権利を保障し、子ども食堂やひとり親家庭、生活困窮家庭の学習活動等を支援します。

宣言 2 立志の教育を推進します
教育センターを設置し、政策研究所と連携し教育政策の立案、学力の向上、ICT教育、教育相談、特別支援教育等を充実させ、志をもって自らの夢や目標にチャレンジする人材を育成します。

宣言 3 「子どもの幸福度世界一」オランダに学びます
オランダは、子どもの幸福度世界一。子ども達は人権と自由が尊重され個性豊かな人格を形成しています。オランダへの親善大使の派遣等の交流を通して、心豊かな自立した人材を育成します。

宣言 4 マレーシアへの中学生海外派遣を継続します
姉妹都市マレーシア ペタリングジャヤ市へ主催のリーダーシッププログラム等に中学生等を派遣しグローバルな人材を育成するとともに友好関係を深めていきます。

宣言 5 オンリーワンの「読書のまちづくり」を目指します
三芳町は、20年連続埼玉県市町村で一人当たりの図書館貸出冊数は1位。「よみ愛・読書のまち」をさらに推進し、オンリーワンの「読書のまちづくり」を目指します。

宣言 6 体育館の空調整備等を行います
小中学校の体育館は災害時の地域の避難所になっています。熱中症対策として小中学校の体育館に空調を整備するとともに、公共施設マネジメントに基づき施設の改修工事を行い、教育環境を改善します。

宣言 7 子育てで幸せになる町を目指します
妊娠から出産、育児まで子育て家庭を包括的に支援するとともに、日常の家事・育児支援等のサービスを拡充し、家事援助を担うドゥーラ等の育成支援を行います。

2 幸せと共生のまちづくり

宣言 8 誰一人取り残さない共生社会を目指します
(仮) 共生社会推進宣言を行い、年齢、性別、性的指向、障がいの有無に関わらず、個性と人格を尊重し、お互いに支えあう社会を実現します。

宣言 9 障がい者の社会生活を支援します
あいサポート運動、手話言語条例の推進と、福祉の拠点「太陽の家」を中心にして就労支援、生活支援など障がい者の社会生活を支援します。

宣言 10 高齢者にやさしいまちづくりを推進します
お年寄りが、いつまでも元気で過ごすことができる社会の実現のため、高齢大学、老人クラブ、ふれあいセンター事業等を支援し、高齢者福祉政策を推進していきます。

宣言 11 認知症の方にやさしいまちづくりを進めます
認知症の方やその家族が、地域で自分らしく暮らせるために認知症サポートセンターを中心に支援しグループホームを整備します。

宣言 12 総合的ながん対策を推進します
がん対策の総合サイトを創設し、早期発見早期治療に向けて理解を深め、乳がん検診等の拡充、負担金を見直し、またアピアランスケアを推進します。

宣言 13 健康長寿の町を目指します
高齢者が気楽に健康や介護などの相談が受けられる仕組み作りと、いもっこ体操、ラジオ体操、コパトン健康マイレージ等によりフレイル対策を進めます。

宣言 14 デジタル化を推進し住民サービスを向上させます
マイナンバーカードやデジタル技術を活用した、申請・届出や窓口業務の改善など、一人ひとりのニーズにあったサービスを提供し、多様な幸せの実現を図ります。

3 安心・安全・快適なまちづくり

宣言 15 公共交通政策を推進します
地域公共交通計画を策定し、新たな公共交通の社会実験を実施し、路線バスの再編、交通補助事業等も含めて公共交通を充実させます。

宣言 16 三芳版スーパーシティ構想を策定します
藤久保地域拠点の整備、各エリアとの交通網の充実、カーボンニュートラル関連技術の活用などによるコンパクトでスマートなまちづくりを推進します。

宣言 17 安心安全で快適な都市基盤整備を進めます
交通量調査等に基づき歩道や道路環境、竹間沢大井勝瀬通り線等の整備を促進し、安心安全で快適な都市基盤整備を進めます。

宣言 18 地域防災力を向上させます
自主防災組織の設立、人材育成を支援するとともに、地域連携避難訓練を継続・発展させ、地域防災力を高めます。

宣言 19 遠隔自治体との災害時相互応援協定を進めます
防災協定を通して大規模災害時における応援・受援体制を構築し、災害時に備えるとともに交流を進めます。

宣言 20 緑と景観を保全し、新たな緑地を創造します
美しい武蔵野の平地林の緑と景観を守るために、三芳町独自の景観に関する条例を制定し、緑の保全と新たな緑地を創造します。

宣言 21 令和の森公園等の整備をします
ドッグラン、せせらぎの水辺、アスレチック等につき、農業体験、スケートボードスペースの設置など一日家族で憩える公園整備を進めます。

4 魅力あふれる元気なまちづくり

宣言 22 町のシンボル「未来の創造拠点」整備を推進します
老朽化した藤久保小学校、図書館、公民館、児童館、商工会館等を複合化する「集い・学び・育つ」藤久保地域拠点の整備を推進します。

宣言 23 スマートICフル化と周辺整備可能性調査を行います
関越自動車道三芳PAのスマートICの供用を開始し、町の「西の玄関口」となる周辺整備の可能性調査を行います。

宣言 24 産業用地開発に向けて地域経済の活性化を進めます
企業、団体との懇談会、事業所訪問等を行い地域経済の活性化を進め、スマートIC周辺、竹間沢通西への産業用地開発に向けた調査研究を進めます。

宣言 25 みよしフォレストシティ構想を推進します
SDGsの理念に基づき、三芳町の自然、農業等の資源を活用し、大都市近郊の未来都市構想を策定し、農と自然豊かな世界に誇れる町を創ります。

宣言 26 みよし農業を発展振興させます
世界農業遺産認定を目指し、みよし野菜のブランド化をはじめ農業塾、六次産業支援など三芳町の農業をさらに発展させます。

宣言 27 みよしのガーデンツーリズムを推進します
コロナ禍において近場で手軽なマイクロツーリズムに人気が集まる中、三芳町の農と自然を体験できるガーデンツーリズムによって観光促進を図ります。

宣言 28 芸術文化のまちづくりを推進します
芸術文化は私たちに「生きる力」を与え、人生を豊かにしてくれます。(仮) みよしアートフェスティバルの開催と若手芸術家を育成し、芸術文化の香る町を創ります。

5 住民参加と対話のまちづくり

宣言 29 SDGsのまちづくりを推進します
「SDGsまちづくり宣言」に基づき、事業者、団体、住民等と連携を図るとともに、「イノベーションアワード」を創設し、SDGsのまちづくりをさらに推進します。

宣言 30 対話を重視し、協働のまちづくりを推進します
まちづくり懇話会、出前町長室、町長の事業所訪問など「対話」を重視します。住民の皆さんの意見を広くお聞きし、政策立案に活かしていきます。

宣言 31 地域コミュニティが元気な町を創ります
行政区や自治会への加入率が減少しています。町の元気は地域コミュニティから。行政区への支援と新たな地域コミュニティの在り方について検討し、元気な地域を創ります。

宣言 32 第6次総合計画を策定します
未来の私たちのまちづくりのビジョン「第6次総合計画」を住民の皆さまと一緒に策定します。

宣言 33 行財政改革と財政基盤の安定を図ります
第6次行革大綱の推進と企業誘致、留置、ふるさと納税などにより税収増を図り、さらなる行財政改革を進めるとともに行財政基盤の安定化を図ります。

宣言 34 ホストタウン交流事業を推進します
東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、オランダ、マレーシアとスポーツ・文化・教育等の交流事業を実施します。

宣言 35 新たなシティプロモーション政策を推進します
官民連携によるシティプロモーション特設サイトを設置し、広報みよし、FacebookやLINEなどのSNS、ふるさと大使等により町の魅力を広く発信します。